

Minami こども教室

2018 年度事業実施報告書



2019 年 4 月 Minami こども教室実行委員会

目次

1. 事業の背景と目的	3
1.1 事業の背景	3
1.2 事業の目的	3
2. 事業の実施内容	3
2.1 実行委員会による運営	3
2.2 放課後学習教室の実施	4
2.3 課外学習の実施	4
2.3.1 料理教室（7月）	5
2.3.2 盆踊り（8月）	5
2.3.3 料理教室（12月）	6
2.3.4 遠足（3月）	6
2.3.5 連携団体等の行事参加	7
2.4 保護者・家庭への参加呼びかけ、生活支援	8
2.5 小学校・中学校との連携	9
2.6 学習支援ボランティアの募集と育成	9
2.7 他団体との連携	9
3. 事業の成果と課題	10
3.1 事業の成果	10
3.2 事業の課題	10

1. 事業の背景と目的

1.1 事業の背景

大阪市は全国の政令指定都市の中では、人口に占める外国人登録者数の比率が最も高い。大阪市「外国人住民国籍別人員調査表」によると、2018年9月末現在、大阪市内には約13万5千人の外国人住民が暮らしており、その数は近年増加傾向にある。また、文部科学省が調査する「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況に関する調査（平成28年度）」によると、大阪府内には日本国籍と外国籍の児童生徒を合わせ、3,030人に日本語指導が必要なのことがわかっている。

そんな中、2012年4月に大阪市中央区で外国籍女性による実子刺殺自殺未遂事件が起こった。亡くなった児童が通っていた大阪市南小学校が中心となり、問題意識を共有する団体や個人が集まり、「外国人母子支援ネットワーク事業」が発足された。中央区内には、日本語での学習や教科学習に困難を抱えるばかりでなく、仕事が忙しい保護者との時間が持てず、孤立状態になる「外国にルーツをもつ子どもたち」が暮らしているという実態がわかってきた。

そして、2013年5月、大阪市立南小学校から支援要請を受け、外国にルーツをもつ子どもが通える学習支援教室、「Minami こども教室」を立ち上げるための実行委員会が結成された。2013年7月～8月にかけてボランティア養成講座が実施され、2013年9月より学習支援教室が開始された。

1.2 事業の目的

事業の目的は、以下の3点である（Minami こども教室規約より）。これらの目的達成のため、外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした学習支援教室を運営している。

1. 地域の外国にルーツのある子どもたちの補充学習と子どもたちの支えあう関係づくりに資する活動を行う。
2. 外国人家庭の自立のために必要な情報提供や社会資源の活用機会拡大に努める。
3. 地域の多文化共生を促進させ、誰もが差別されず、のびやかに暮らしていける社会づくりの一助となる。

2. 事業の実施内容

2.1 実行委員会による運営

本事業の実施体制として、上記背景のような課題解決に賛同する複数の支援団体や個人とともに、実行委員会形式による事業運営を行なっている。実行委員会構成メンバーの特徴は、すでに大阪市内で外国にルーツを持つ子どもたちへの支援実績のあるNPOや、日本語教育や多文化共生について実践や研究をして

いる個人など、それぞれの経験が事業に深く関わりがあるという点である。

実行委員会実施日：毎月第2か第3土曜日 10:00-12:00

実施場所：中央区子ども・子育てプラザ（大阪市中心部島之内）

大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町）

コリア NGO センター（大阪市生野区桃谷）

実行委員構成員：大阪市立南小学校、（特活）コリア NGO センター、（公財）

大阪国際交流センター、こどもひろば、西淀川インターナショナルコミュニティ、大学院生、教員、元教員、会社員

実行委員：15 名

事務局：（特活）コリア NGO センター

教室運営コーディネータ：9 名

教室ボランティア：47 名（2018 年 4 月～2019 年 3 月参加実績のある方）

2.2 放課後学習教室の実施

実施日時：毎週火曜日 18:00～20:00

部屋は 17:00 から解放。学習後のボランティアミーティングは 20:30 終了。

実施場所：中央区子ども・子育てプラザ

中央区子ども・子育てプラザは、大阪市が所有する施設で、中央区社会福祉協議会が指定管理を受け運営しており、利用に際して中央区および同区社協の協力を得ている。なお、火曜日以外に実施した受験生の勉強会に際しては、道仁連合町会の協力を得て、道仁連合会館を使用させてもらった。

内容：学校の宿題、日本語学習

1 時間目（18:00～18:45） 学校の宿題

2 時間目（19:00～19:45） 対話型学習「Minami Fun Time」

発足当初より、個々の学習スピードに合わせられるように、子どもとボランティアとの一対一の指導を実施している。2015 年度より、絵本や小学生新聞を用いた対話型学習「Minami Fun Time」を実施している。また、毎月第 4 火曜日（18:00～18:15）には、島之内図書館の読み聞かせボランティアによる読み聞かせの時間を設けている。

子ども参加者数：小学生 30 名、中学生 21 名、高校生 7 名

発足当初は小学 3 年生以上の小学生を対象にしていたが、小学生時代に本教室に通っていた卒業生を中心に、支援の必要な中高生も継続して教室に通っている。

2.3 課外学習の実施

Minami こども教室に参加する子どもたちの多くは、保護者が不定休であったり、昼夜逆転の生活であったりして、休日に外出や遠出をする機会が少ない。そのような子どもたちに学校と教室以外にも様々な経験をすべきだと考え、通常

の学習教室に加え、子どもたちの社会教育・文化的活動の場として課外学習を実施した。内容に応じて、地域の団体や、関連する団体に協力を要請した。また、保護者の見学や参加も積極的に呼びかけた。

2.3.1 料理教室（7月）

実施日時：2018年7月24日（火）

実施場所：大阪市立南小学校 家庭科室、多目的室

参加者数：子ども33名（うち就学前の子ども5名）、大人32名（うち南小学校教員5名、保護者3名） 計65名

内容：大阪市立南小学校の家庭科室と多目的室を借り、調理実習を行った。メニューは「うどん」「おにぎらず」「オレンジゼリー」。本教室の子どもたちは、夜間、保護者が働いているなどで、食事を自分で準備することがある。自分で簡単な調理ができるようにと、レシピは簡単なものとし、栄養面に配慮した。メニューや調理法の考案は、実行委員と市内小学校の調理員が共同で行った。なお、調理中に体調不良の子どもが出たことで、調理実習は中止し、予定を変更してメニューを省略した。猛暑の中、クーラーのない家庭科室での実施には無理があり、来年度の開催時期については見当が必要である。



2.3.2 盆踊り（8月）

実施日：2018年8月4日（土）

実施場所：瓦屋町グラウンド

参加者数：子ども18名、大人7名 計25名

内容：地域で行われる盆踊り大会に参加した。今年は、初の試みとして、地域の子ども食堂「しま☆ルーム」と合同での参加となった。島之内にある道仁連合会館の部屋を借り、両団体のボランティアが子どもたちの浴衣の着付けやヘアアレンジを行った。去年の反省から、盆踊り大会の関係者に依頼し、テントと机、椅子を用意してもらった。そのため、食事の場所としてだけでなく、集合場所としてテントを有効活用することができた。また、去年、盆踊り大会に参加していても子どもたちが踊り方を知らないので、輪の中に入っていけないという課題があった。そのため、今年は、盆踊りの講師を事前に教

室に呼んで、盆踊りの練習を行った（2018年7月31日実施）。これまで、地域の外国人自助組織「サウスイーストアジアコミュニティ協会」のメンバーと一緒に同じ盆踊り大会に参加してきたが、今年は交流が少なかった。



2.3.3 料理教室（12月）

実施日：2018年12月26日（水）

実施場所：大阪市立南小学校 家庭科室、多目的室

参加者数：子ども 38 名（内 10 名がしま☆ルーム）、大人 31 名（内 12 名がしま☆ルーム、4 名が保護者） 計 69 名

内容：毎年 2 度実施している料理教室であるが、今回の初の試みは、連携団体のしま☆ルームと合同で企画、実施したことだ。メニューは「カレー」「温野菜サラダ」。前回の混乱を避けるため、調理担当は中学年以上とし、低学年や就学前の子どもは多目的室でクリスマスの飾りつけをした。しま☆ルームのボランティアの手際の良さのおかげで調理はスムーズに終了した。食事の後、多目的室では、トランペット演奏や弾き語りなど、子どもとボランティア、そして保護者が共同で出し物を行った。また、しま☆ルームの要請で、ファミリーマートからケーキの提供や着ぐるみを着たボランティアなどの参加などがあり、大いに盛り上がった。



2.3.4 遠足（3月）

実施日：2019年3月30日（土）

実施場所：アクトパル宇治（京都府宇治市）

参加人数：小学生 17 名、中学生 10 名、高校生 4 名、大人 14 名 計 45 名

内容：2016 年度の遠足から毎年、協力いただいている「みらい観光（有限会社 武元重機）」に今年も無償で大型バスを提供していただいた。アクトパル宇治では、午前中、木工工作を行い、子どもたちは創造力をはたらかせ、各々の作品を完成させた。施設内にある食堂で予約していた昼食をとり、午後はアスレチックと体育館で体を動かした。体育館では、教室コーディネータが考えたレクリエーションで子どもから大人まで全員で楽しんだ。当日は雨天であり、道中、少し渋滞があったものの、予定通りの時間で無事に終了した。



2.3.5 連携団体等の行事参加

上記の課外活動は、Minami こども教室の正式行事として行っているものであるが、その他にも、連携団体等からの招待を受け、Minami こども教室の子どもたちが参加する機会があった。以下の行事では、実行委員が引率し、行き来の安全に心がけた。

◆ ヤングアメリカンズ

実施日：2018 年 4 月 28 日（土）、29 日（日）、30 日（月）

実施場所：大阪国際交流センター

主催：NPO 法人じぶん未来クラブ

Minami こども教室からの参加者：中高生 8 名

◆ KARAKORO の演劇

実施日：2018 年 5 月 4 日（金）

実施場所：尼崎市ピッコロシアター

主催：からだところの出会いの会「KaRaKoRo」

Minami こども教室からの参加者：中学生 2 名

◆ こどもひろば同窓会「みんなで海へ行こう！」

実施日：2018 年 9 月 2 日（日）

実施場所：大阪府立青年海洋センター

主催：こどもひろば

Minami こども教室からの参加者：高校生 5 名

◆ 寿司教室

実施日：2018 年 10 月 14 日（土）

実施場所：大阪市上本町

Minami こども教室からの参加者：5 年生以上の小中高生 20 名

中央区社会福祉協議会から紹介を受け、しま☆ルームと合同で参加。

◆ キッザニア職業体験

実施日：2018 年 11 月 21 日（水）

実施場所：キッザニア

Minami こども教室からの参加者：小学生 24 名

「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」が支援する市民団体「おおさかこども多文化センター」からの紹介で、「キッザニア甲子園プレミアムナイト」への招待があり、しま☆ルームと合同で参加。

◆ 高校生交流会

実施日：2018 年 12 月 27 日（木）

実施場所：大阪国際交流センター

主催：大阪国際交流センター

Minami こども教室からの参加者：高校生 6 名

◆ 餅つき大会

実施日：2018 年 1 月 13 日（日）

実施場所：道仁公園

道仁連合町会が実施する餅つき大会に子どもたちをつれて参加。来日して間もない子どもたちも日本の正月行事を体験することができた。

◆ 高校生交流会

実施日：2019 年 3 月 1 日（金）

実施場所：大阪国際交流センター

主催：大阪国際交流センター

Minami こども教室からの参加者：高校生 3 名

2.4 保護者・家庭への参加呼びかけ、生活支援

本事業では、子どもを支えるのに不可欠な保護者との連携にも力を入れている。それぞれの子どもの状況や家庭環境、成育歴に応じた支援をすべく、登録の際には保護者へのヒアリングを行い、承諾書にもサインをもらっている。

また、小学校との連携のもと、2018 年 7 月 11 日、12 日、13 日に実施された南小学校の 1 学期保護者懇談会の後、Minami こども教室の懇談会の時間をとってもらい、3 日間で、14 名の保護者と懇談することができた。

特に見守りが必要な家庭には、区役所等へ同行をし、児童扶養手当申請等の行政手続きの支援を行った。生活に変化のあった家庭や、乳幼児のいる家庭には、家庭訪問を頻繁に行い、生活面での困難を相談、解決できるよう努めた。

2.5 小学校・中学校との連携

設立当初から南小学校の校長や日本語指導教員が実行委員として関わっており、実行委員会で定期的に情報交換を行っている。また、2018年度には南小学校の卒業生が多く在籍する大阪市立南中学校とも複数回懇談会を行なった。学校と実行委員会が定期的に子どもの様子や学習課題について共有しているため、子どもの生活の変化や緊急を要する事態にも対応することができた。

2.6 学習支援ボランティアの募集と育成

教室での子どもへの学習支援はボランティアが担っている。参加する子どもたちの増加に伴い、新たなボランティアの募集も随時行っている。募集方法としては、ボランティア募集のウェブサイトや大阪市のポータルサイト、関係のある大学教員などへの呼びかけ、実行委員やボランティアの口コミなどである。

第4週火曜日をボランティア見学会として設定しており、見学会参加者らに教室についてのオリエンテーションをした後、子どもたちの側で教える体験をしてもらっている。

また、大学生に外国にルーツをもつ子どもたちの現状や多文化共生社会実現の必要性を学び、ボランティアとして参加してもらうために、実行委員が大学などで講演をしたり、集団で見学を受け入れたりしている。

昨年度までは、毎年ボランティアの育成活動として、研修会を行っていた。今年度は、Minami こども教室の5年間の振り返りとして、実行委員が作成したスライドショー鑑賞会を行った。子どもとボランティア両者ともに、歓声を上げながら、子どもたちの成長と、教室の歩みを振り返ることができた。

2.7 他団体との連携

連携団体である「こどもひろば」が、高校生勉強会 2018 年 6 月 28 日（木）～2019 年 3 月 14 日（木）毎週木曜日に勉強会を開催しており、Minami こども教室の高校生が参加した。

また、毎週水曜日に中央区島之内で開催している「しま☆ルーム」には、Minami こども教室に通う子どもたちがたくさん参加しており、合同で料理教室を主催したり、盆踊り大会に参加したりと協力関係を深めている。

さらに、発足以来、子どもたちが暮らす島之内地区の道仁連合町会からも手厚い協力をいただいている。具体的には、町会主催の行事への参加や、連合町会が有する道仁連合会館という施設の利用などである。Minami こども教室のような非営利団体が活動する場所が限られているこの地域において、公共性の高い施設を使用させてもらえることは大変ありがたいことである。

3. 事業の成果と課題

3.1 事業の成果

5年目を迎えた Minami こども教室の事業成果を以下にあげる。

- ◆ 新規に登録する子どもが増加：小学校や中学校から紹介、あるいは親や子ども同士の口コミなどで新たに教室に参加する子どもが増えている。また、現在参加している子どもに妹や弟がいる場合は、学齢期になると必ず登録する。親が安心して子どもたちを Minami こども教室に通わせてくれていることがうかがえる。
- ◆ 子どもたちの定着率の高さ：当初は小学生のみを対象としていたが、小学校を卒業して中学生になっても高校生になっても教室に通い続ける子どもがいる。何年も通っている子どもにとって、教室が「居場所」としての機能を果たしていると言える。また、他地域に転出した子どもたちも、継続して教室に来たり、遠くて通えない場合でも遠足などには参加したりしている。
- ◆ セーフティネットとしての機能：子どもだけでなく、保護者も実行委員長をはじめとするコーディネータやボランティアに相談をするようになっていく。何かあったときに信頼できる大人がいること、子ども同士の仲間意識の芽生えていることなどから、子どもが安定しているように見える。
- ◆ 学校との連携：DV被害や生活困窮など、学校だけでは解決のできない課題を抱えた外国人親子のサポートをすることができている。具体的な支援としては、夜間の見守りや、家庭訪問、法律相談や医療機関への付き添いなど、多岐にわたる。
- ◆ 高校受験のサポート：今年度、Minami こども教室に通っている中学3年生は2名であり、2名ともが希望する高校に合格することができた。教室に来るまで、自力でがむしゃらに勉強していた子が支援者と出会うことによって、ポイントを押さえながら、受験勉強に励むことができた。また、高校進学自体に意欲的でなかった生徒も、教室でコーディネータやボランティア、そして高校生の先輩らに励まされ、高校進学という道を自ら選んだことも進路保障という点において意義深かった。
- ◆ メディア対応：外国にルーツをもつ子どもたちの学習支援教室のモデル事業として新聞で取り上げられた。朝日新聞「社説」2019年3月29日。

3.2 事業の課題

本事業には以下のような課題もある。

- ◆ 運営面での基盤：運営面では、実行委員会やコーディネータの中での役割分担が毎年変わるため、引継ぎ等の作業に時間がとられ、作業が効率化しづらい状態が続いている。

- ◆ 財政面の安定化 : 2018 年度は、東教育財団、善意銀行、公益財団法人日本教育公務員弘済会大阪支部（大阪教弘）、関西 NGO 協議会から資金的助成を受けた。持続可能な教室運営には、今後も人材と収入の確保は不可欠である。
- ◆ 学習支援の形骸化 : 居場所やセーフティネットとして機能している一方で、教室に通う特に小学生の学習への意欲を向上させられているか疑問が残る。「居場所だから何でも自分たちが好きなことができる場」ではなく、「学習を通して子どもたちが自信を持てる場」として、学習支援と居場所を相互作用で高めていくことができるよう、来年度以降、対策が必要である。
- ◆ 中高生への学習支援 : 当初は小学生を対象に開始した教室であるが、中学・高校に進学しても、教育支援のニーズがなくなるわけではない。むしろ勉強が難しくなり、受験対策などもあるため、中高生に集中した学習支援が必要である。さらには、進路に悩みを抱えている若者たちの就労支援なども将来的には行っていく必要性がでてくるだろう。進路保障の観点から、小中高と連携し、一人ひとりの未来を見据えた支援を考えていかなければならない。
- ◆ 行政、学校、地域、他団体との連携強化 : Minami こども教室はマンパワー、専門性、財政面などにおいてまだまだ未熟な組織である。自分たちになり資源は、行政や学校、他団体から協力してもらわなければならない。そのためにも連携団体との協力関係をより一層強化していく必要がある。

以上